



2021年9月期 第2四半期

# 決算説明資料

東証1部 証券コード：4427

株式会社 EduLab

2021年5月7日





1. 第2四半期決算概況	2
2. 2021年9月期第2四半期実績	3
3. 事業セグメント別 実績	8
4. 2021年9月期通期見通し	17
5. 事業トピックス①	19
6. 事業トピックス②	22
7. 事業トピックス③	26

## 1. 2021年9月期2Q決算概況

- 売上高 4,319百万円（前年同期比 42.3%増）
- EBITDA 607百万円（同 19.5%増）
- 営業利益 105百万円（同 46.7%減）
- 経常利益 △32百万円（前年同期は111百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△63百万円（前年同期は50百万円）
  - EPS △6.44円
- テストセンター事業、テスト運営・受託事業が牽引し、前年比42.3%の増収を達成
- 人件費・減価償却費の増加等により営業利益は前年同期比で減益となった他、東証一部への市場変更に伴う費用、有価証券評価損等の影響により、経常・四半期純損失となった
- 2021年9月期通期見通しは期初予想に変更なし

## 2. 2021年9月期2Qのセグメント動向

- テスト等ライセンス事業は、企業・学校向けに「CASEC」の実施が順調に推移し増収（22.2%増）
- 教育プラットフォーム事業は、前期に買収したEDSのメディア・広告収入等が多教科PF収入の減少をカバーし増収（6.2%増）
- テストセンター事業は、季節変動の影響を受け、第2四半期は第1四半期と比較して売上が減少、平日稼働の固定費をカバーできずセグメント損失（△9百万円）となる
- AI事業は、「DEEP READ」や「CAERA」関連ソフトウェア利用に伴うライセンス収入が増加したものの、中国自習室事業譲渡の影響により売上は前年同期比でマイナス（6.4%減）
- テスト運営・受託事業は、全国学習・学力状況調査（小学校・中学校）や埼玉県の実験・学力・学習状況調査の準備業務等が順調に推移し増収（20.1%増）。



# 2021年9月期 第2四半期実績

## 損益計算書

(単位：百万円)

	20年9月期 2Q	21年9月期 2Q	対前年同期比
売上高	3,036	4,319	+ 42.3 %
EBITDA	508	607	+ 19.5 %
EBITDA率	16.7 %	14.1 %	△ 2.6 pt
営業利益	197	105	△ 46.7 %
営業利益率	6.5 %	2.4 %	△ 4.1 pt
経常利益	111	△ 32	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	50	△ 63	-

- 売上高は、テスト等ライセンス事業、教育プラットフォーム事業、テストセンター事業、テスト運営・受託事業で売上が順調に拡大し、**対前年同期比 42.3%増**となる**43.1億円**を達成
- 増収に伴い、人員増に伴う人件費の増加等があったものの、**売上総利益は同 6.3%増**となる**14.5億円**、**EBITDAは同 19.5%増**となる**607百万円**に拡大
- ソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加等により、営業利益は前年同期比で**46.7%減**となる**105百万円**となった
- 増加費用の主な内訳は以下のとおり：
  - 人員増等に伴う人件費の増加（168百万円増加）
  - ソフトウェア開発投資等に伴う減価償却費の増加（182百万円増加）
- 東証一部への市場変更に伴う費用、有価証券評価損等の営業外費用により、**32百万円の経常損失**、**63百万円の四半期純損失**となった

## セグメント別の売上高・セグメント利益

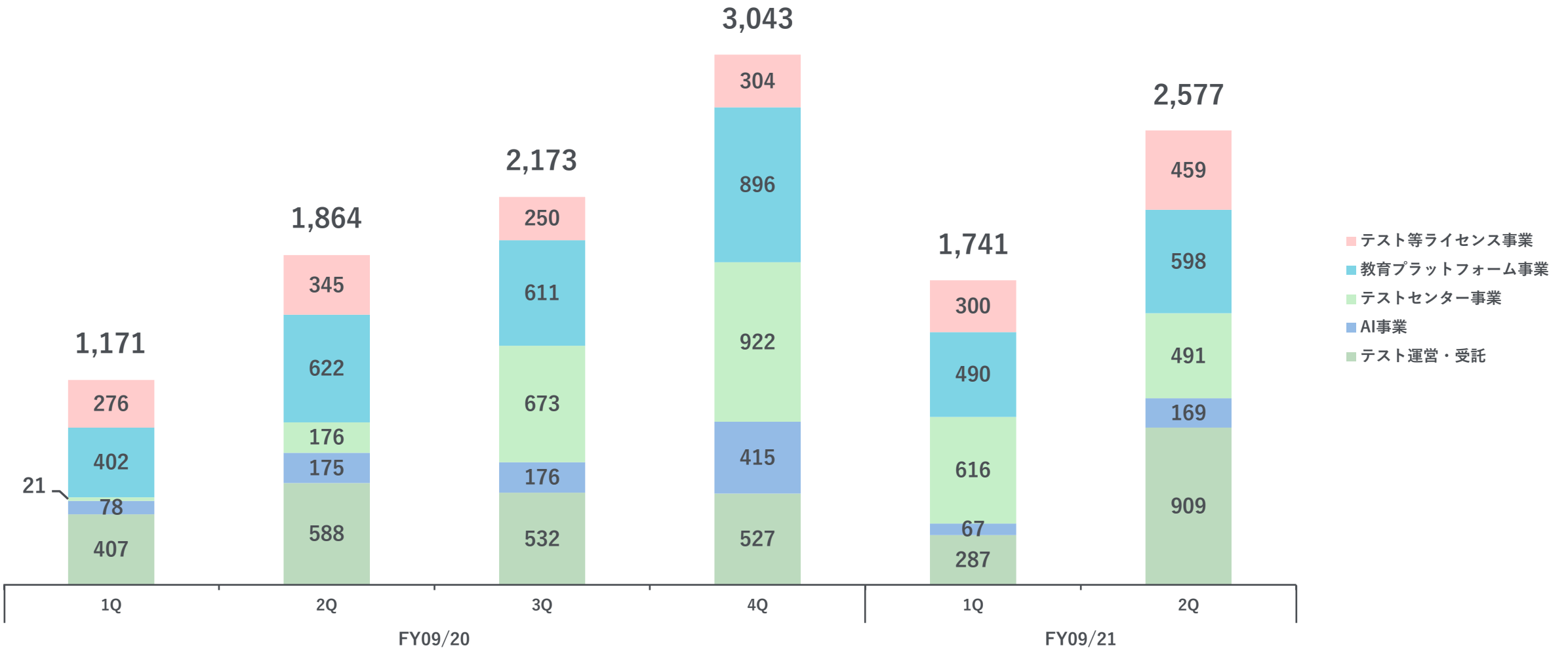
(単位：百万円)

事業セグメント	20年9月期 2Q	21年9月期 2Q	対前年同期比	
テスト等ライセンス	売上高	621	759	+ 22.2 %
	セグメント損益	201	356	+ 76.6 %
教育プラットフォーム	売上高	1,024	1,088	+6.2 %
	セグメント損益	539	444	△ 17.6 %
テストセンター	売上高	198	1,107	+ 458.3 %
	セグメント損益	13	△ 9	—
AI	売上高	253	237	△ 6.4 %
	セグメント損益	83	△ 55	—
テスト運営・受託	売上高	996	1,196	+ 20.1 %
	セグメント損益	2	85	+ 3,579.2 %
全社費用	△ 643	△ 715	72百万円 増加	

# 売上高の四半期推移<sup>1</sup>

<sup>1</sup> FY09/20 3Q,4Qは監査法人レビュー前の参考値

(単位：百万円)



# セグメント利益の四半期推移<sup>1</sup>

(単位：百万円) 1 FY09/20 3Q,4Qは監査法人レビュー前の参考値

セグメント	FY09/20				FY09/21	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
テスト等ライセンス事業	64	137	78	83	100	256
教育プラットフォーム事業	179	359	362	597	197	247
テストセンター事業	△ 30	43	158	188	75	△ 85
AI事業	△ 9	93	93	333	△ 79	24
テスト運営・受託	△ 55	58	36	217	△ 20	106
全社費用	△ 289	△ 353	△ 220	△ 256	△ 329	△ 386



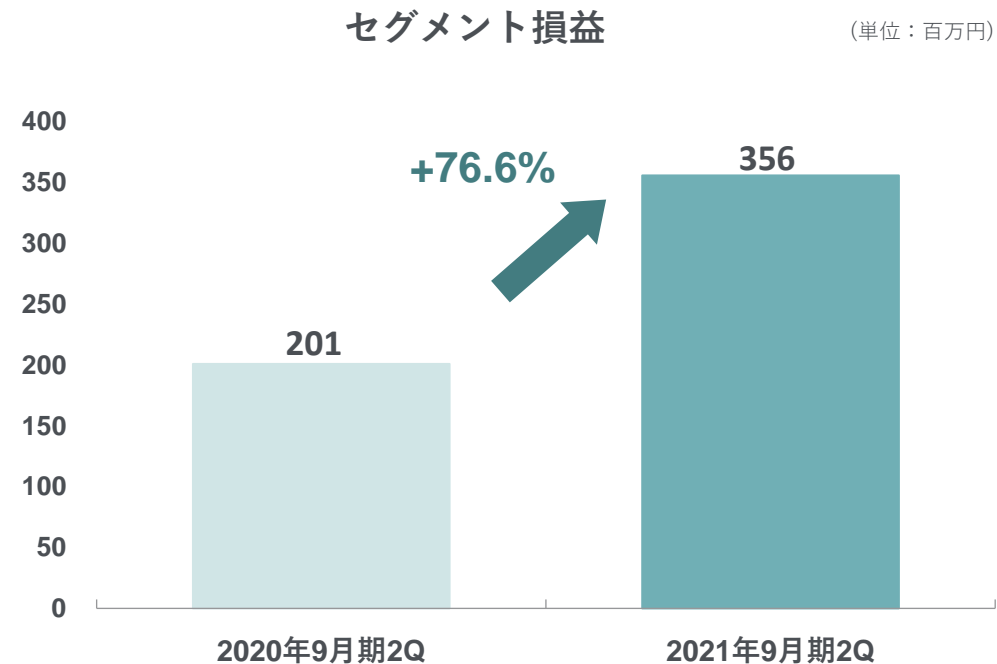
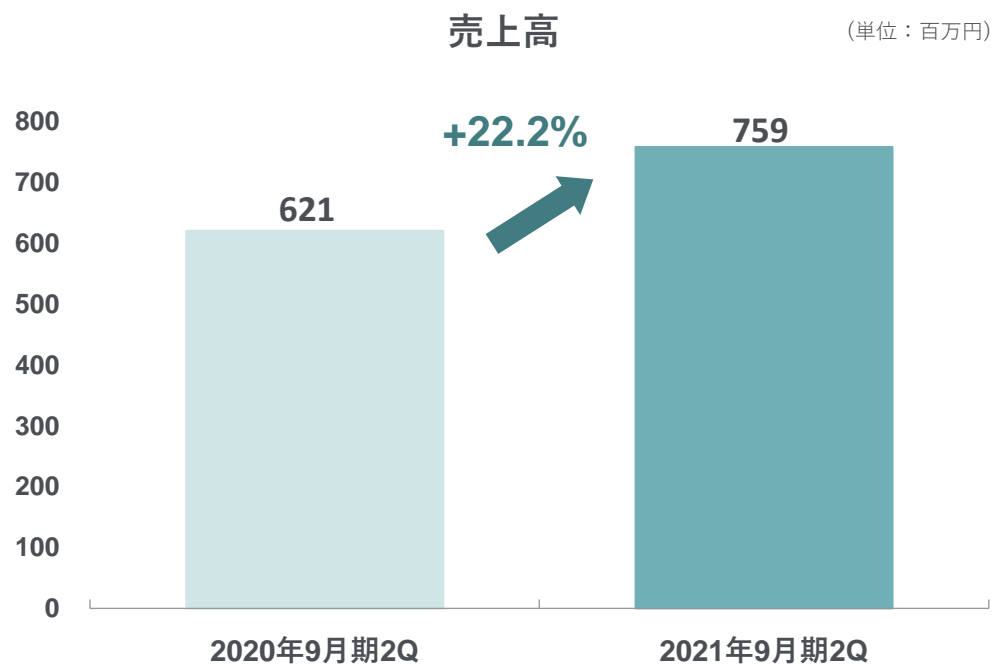


# 事業セグメント別 実績

- オンラインで受験が完結する英語能力判定テスト「CASEC」の企業・学校向け実施が引き続き順調に推移（前年同期比 48百万円増）  
競合もオンライン商品の提供を始めており、一部景況感の悪化の影響も見られ「CASEC」の販売・受注は減速傾向
- 英検協会に提供している4-5級スピーキングテストに伴うライセンス収入が受験者数の減少を受け減少
- 上記の結果、**売上高は前年同期比 22.2%増**となる**759百万円**、**セグメント利益は同 76.6%増**となる**356百万円**となった

## 売上高・セグメント損益

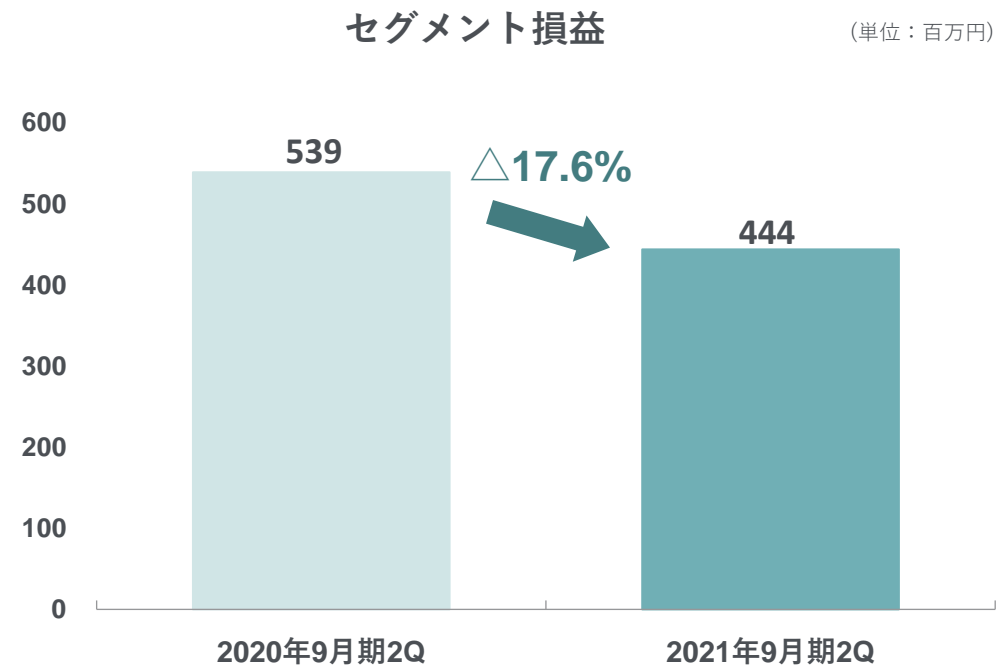
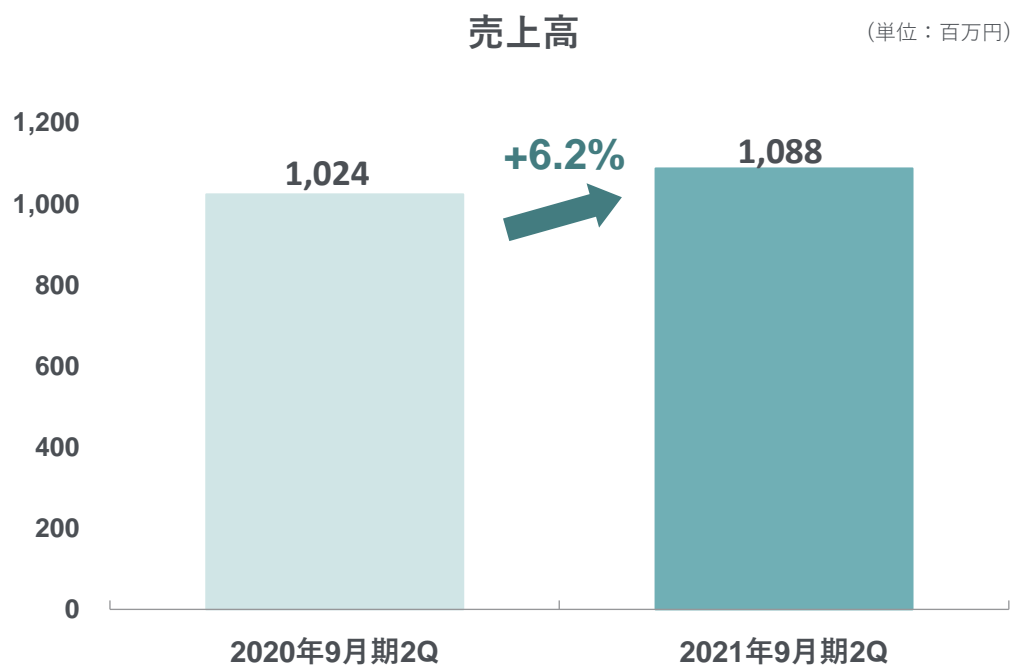
設備投資額：221百万円



- 前期に買収したEDSのメディア・広告収入等（159百万円増）が収益に貢献。一方で利益率の高い多教科プラットフォームの利用料収入が前年同期比で減少
- 上記の結果、**売上高は前年同期比 6.2%増**となる**1,088百万円**、**セグメント利益は同 17.6%減**となる**444百万円**となった
- 新マッチングサービスの「塾ピタ」についてサービス提供を開始、また2021年5月より、本格的にサービス提供を開始する新教育プラットフォームサービス（ブランド名「スタギア」）に伴うライセンス収入の計上を見込む

## 売上高・セグメント損益

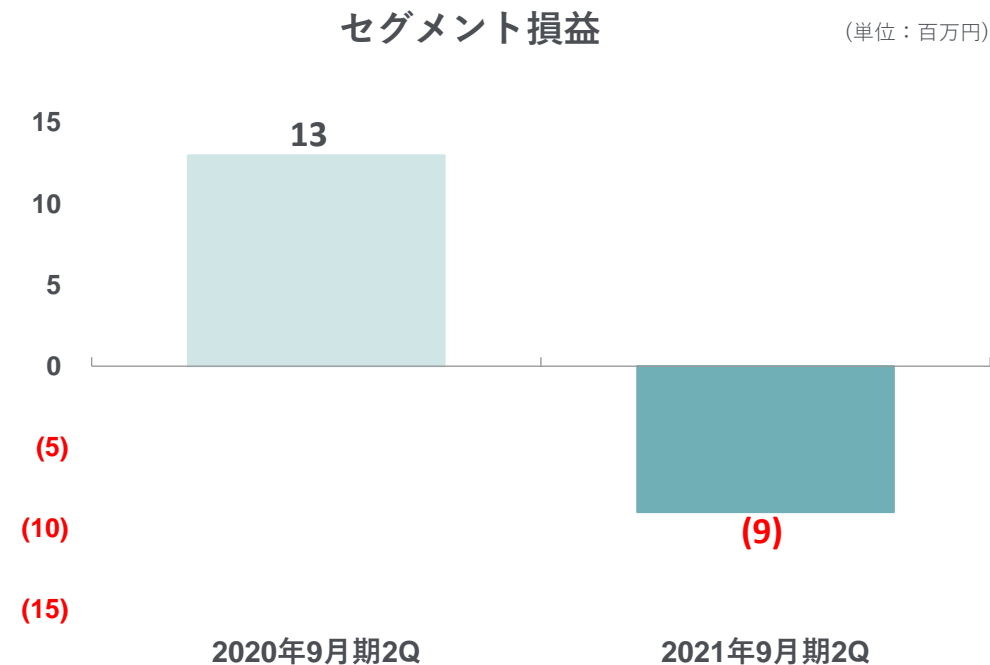
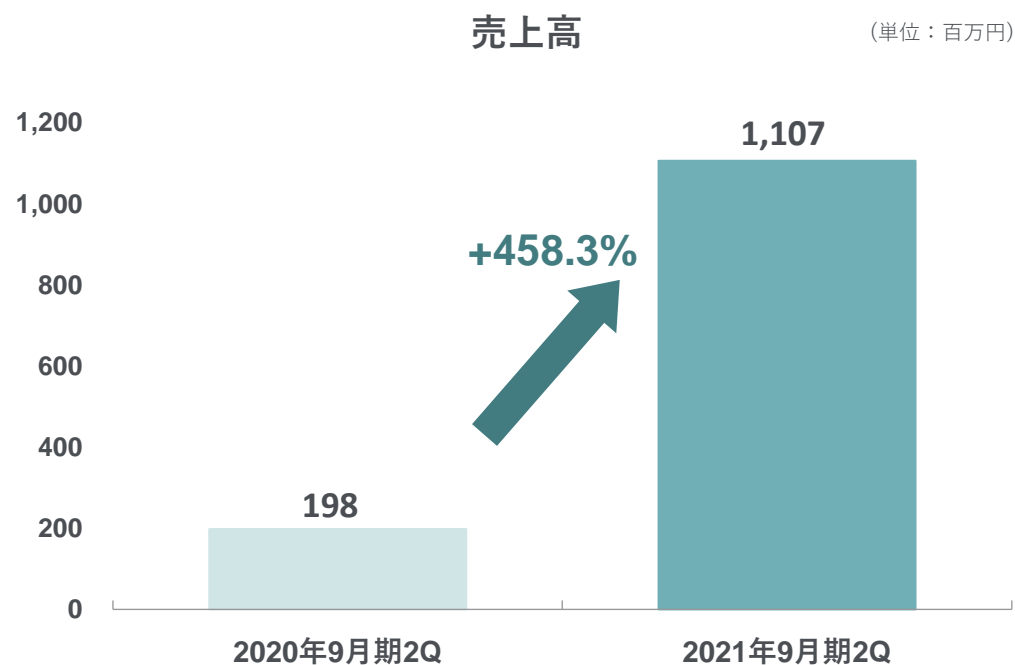
設備投資額：306百万円



- 第2四半期は第1四半期と比較して、季節変動に伴う受験者数の減少の影響を受け、売上が減少。平日受験の開始の遅れのため、平日稼働の固定費をカバーできず
- 上記の結果、**売上高は前年同期比 458.3%増**となる**1,107百万円**、**セグメント損失は9百万円**（前年同期はセグメント利益13百万円）となった
- 英検協会との4月以降のライセンス料金体系の改定、週末に加え平日も合わせた「英検 S-CBT」の受験者数の増加の施策の実施。英検以外の資格・検定試験や入試等を織り込み、通期での売上及びセグメント利益見込みについては変更なし

## 売上高・セグメント損益

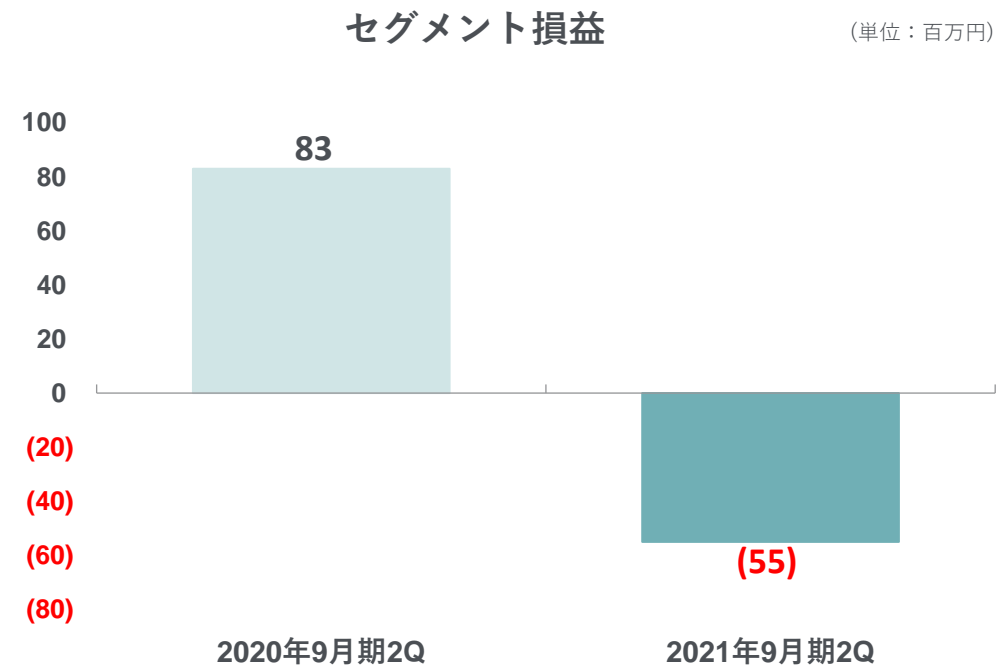
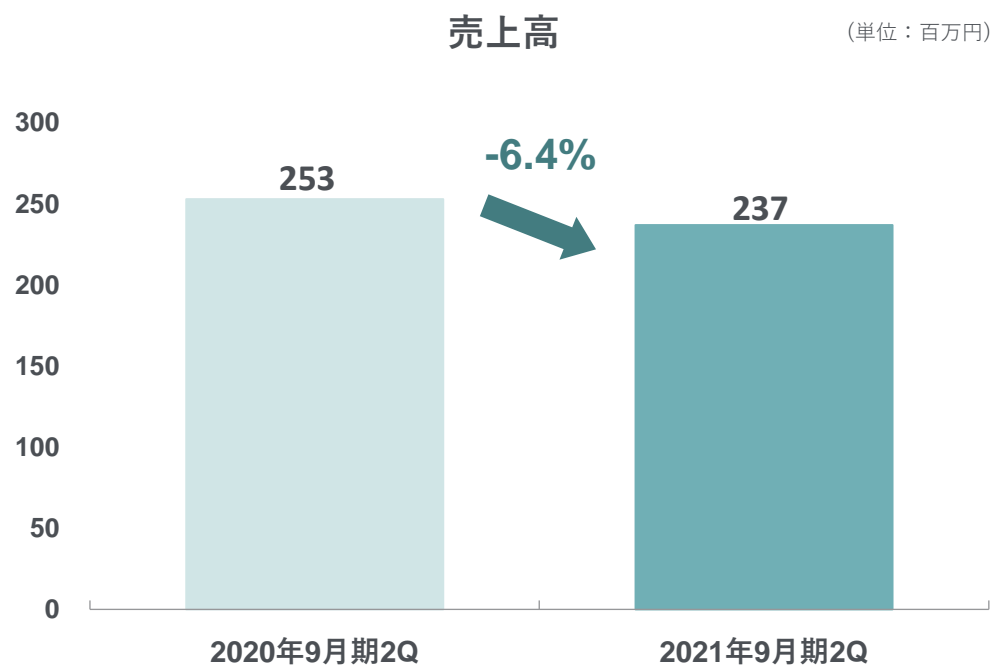
設備投資額：627百万円



- AI-OCR「DEEP READ」（15百万円増）、AIレコメンドエンジン「CAERA」（31百万円増）、オンライン試験監督システム「CheckPointZ」（8百万円増）関連のライセンス収入等は想定通り推移。減収要因は中国自習室事業譲渡に伴うライセンス収入の減少
- 減価償却費等固定費の増加がセグメント利益に影響。この結果、**売上高は前年同期比 6.4%減**となる**237百万円**、**セグメント損失は55百万円**（前年同期はセグメント利益83万円）
- 受注は予算に対してプラスで推移しており、新機能を実装したAI-OCR「DEEP READ」を軸に、通期売上・セグメント利益の見込みについては変更なし

### 売上高・セグメント損益

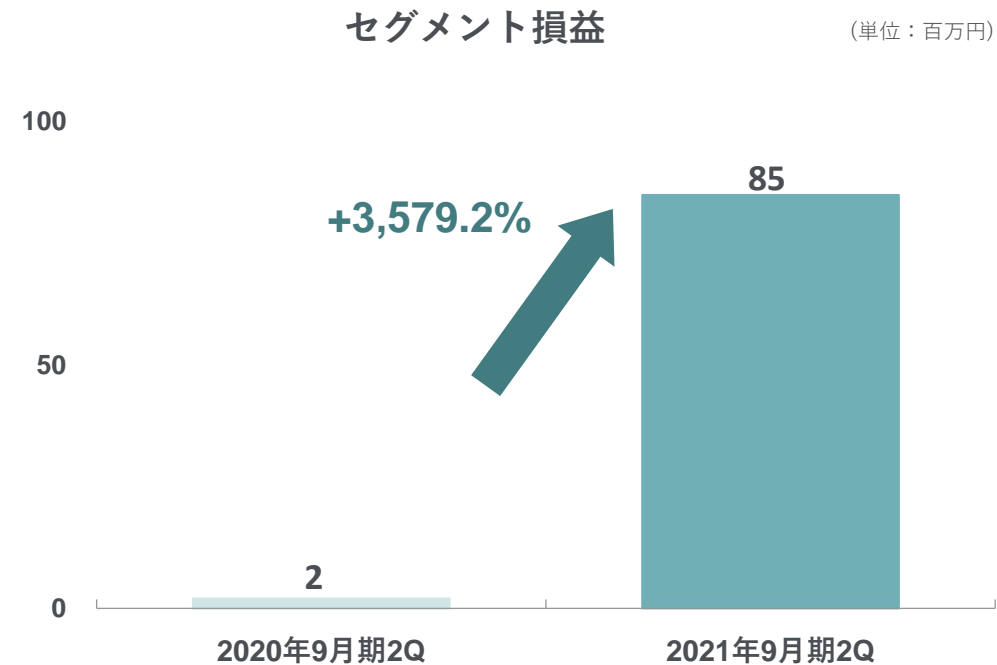
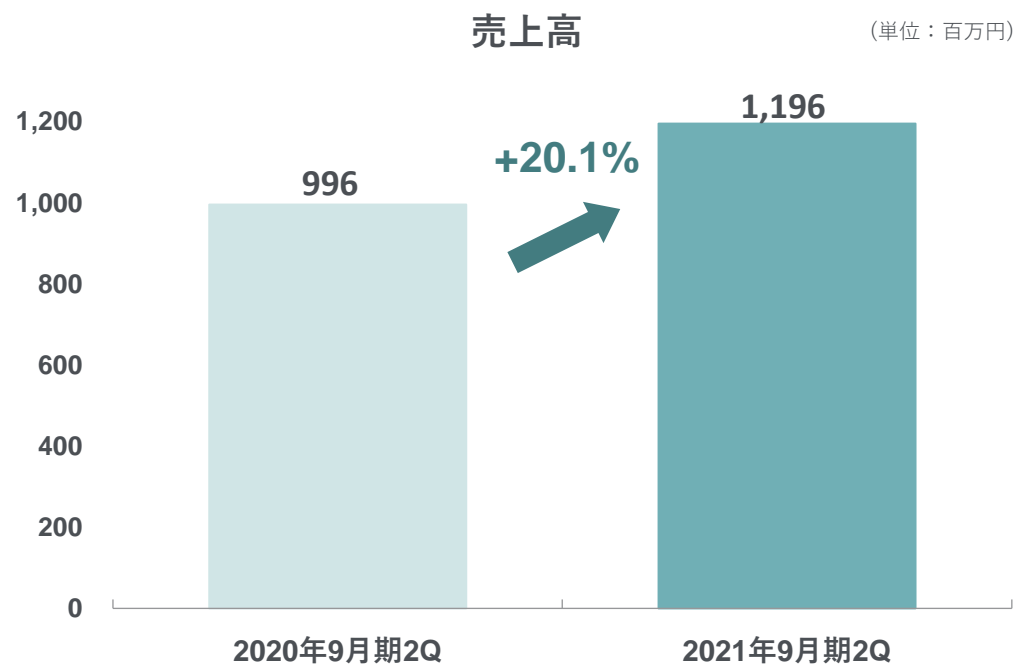
設備投資額：486百万円



- 令和3年度全国学力・学習状況調査（小学校・中学校）の準備業務や埼玉県の学力・学習状況調査の準備業務等が順調に推移
- 埼玉県の学力・学習状況調査案件に参加する他自治体は、福島県、鳥取県、東京都三鷹市、広島県福山市など、19自治体+4校が参加を決定
- **売上高**は前年同期比**20.1%増**となる**1,196百万円**、**セグメント利益**は**3,579.2%増**となる**85百万円**となった
- 各プロジェクトは順調に推移しており、当初見込みに変更なし

## 売上高・セグメント損益

設備投資額：26百万円



営業外損益

(単位：百万円)

	20年9月期 2Q	21年9月期 2Q	対前年増減額
営業外収益	61	67	+ 5
為替差益	23	57	+ 33
投資有価証券売却益	23	3	△ 19
その他	14	6	△ 8
営業外費用	147	204	△ 57
支払利息	17	21	△ 3
社債発行費	3	1	+ 1
投資有価証券評価損	28	26	+ 2
持分法による投資損失	-	5	△ 5
その他	97	150	△ 52

- 今期2Q中の主な変動は、為替変動による為替差益や、投資有価証券売却益、市場変更費用など
- 為替差益は円安基調の影響を受け、前年は23百万円を計上したが、今期は57百万円となった
- 投資有価証券売却益は、前年に売却益23百万円を計上していた影響で減益
- 投資有価証券評価損として26百万円を計上
- 2020年10月に行った東京証券取引所市場第一部への市場変更に伴う関連費用として、今期2Qまでに44百万円を計上

(単位：百万円)

	2020年 9月末	2021年 3月末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>10,600</b>	<b>15,839</b>	<b>+ 5,238</b>
現預金	7,508	12,143	+ 4,634
その他	3,092	3,695	+ 603
<b>固定資産</b>	<b>5,663</b>	<b>7,444</b>	<b>+ 1,780</b>
ソフトウェア	2,758	3,901	+ 1,142
投資有価証券	1,064	1,167	+ 103
その他	1,840	2,375	+ 534
<b>繰延資産</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>△ 1</b>
<b>資産 合計</b>	<b>16,272</b>	<b>23,290</b>	<b>+ 7,017</b>
<b>流動負債</b>	<b>3,782</b>	<b>5,025</b>	<b>+ 1,242</b>
有利子負債	2,262	3,474	+ 1,211
その他	1,520	1,551	+ 31
<b>固定負債</b>	<b>4,464</b>	<b>4,669</b>	<b>+ 204</b>
有利子負債	4,327	4,556	+ 228
その他	136	113	△ 23
<b>負債 計</b>	<b>8,247</b>	<b>9,695</b>	<b>+ 1,447</b>
<b>純資産 計</b>	<b>8,024</b>	<b>13,595</b>	<b>+ 5,570</b>
<b>負債純資産 合計</b>	<b>16,272</b>	<b>23,290</b>	<b>+ 7,017</b>

- 流動資産は前年度末より5,238百万円増加。公募および第三者割当増資による新株式の発行などに伴う現預金4,634百万円の増加、商品558百万円の増加等
- 固定資産は1,780百万円増加。AI関連資産開発や英検協会からのCBT資産買取りなどによるソフトウェア1,142百万円の増加、その他無形固定資産179百万円の増加、敷金212百万円の増加、長期前払費用168百万円の増加
- 有利子負債合計は1,441百万円増加



## キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	20年9月期 2Q	20年9月期	21年9月期 2Q
営業活動による キャッシュ・フロー	298	1,367	△ 518
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 829	△ 1,711	△ 1,836
財務活動による キャッシュ・フロー	754	1,660	6,977
四半期末（期末） 現金及び現金同等物	6,414	7,508	12,143

■ 営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は以下

- 減少要因としては、前払費用及び長期前払費用の増加（△515百万円）、たな卸資産の増加（△421百万円）、預り金の減少（△129百万円）等
- 増加要因としては、仕入債務の増加額（+414百万円）、売上債権の減少（+245百万円）等

■ 投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は以下

- 開発投資等Capexは1,672百万円（2021年9月期2Q実績）
- ソフトウェア開発等 △1,426百万円
  - AI関連資産開発 △378百万円
  - CBT関連資産買取 △276百万円
  - 新規PF関連資産開発 △223百万円
  - 英検IBAにおけるオンライン版の開発・販売許諾権取得△200百万円
- 敷金の差入 △252百万円

■ 財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は以下

- 公募及び第三者割当増資等 +5,761百万円
- 金融機関からの調達 +1,420百万円



# 2021年9月期 通期見通し

## 2021年9月期2Q P&L（累計）と通期予想に対する進捗

下期以降、テストセンター事業における「英検 S-CBT」受験者数の回復や英検以外の各種試験の取り込み、教育プラットフォーム事業における新サービス（ブランド名「スタギア」）の本格開始などを前提に、**通期業績予想については変更なし**。なお、CapexはCBT関連資産買取や英検IBAにおけるオンライン版の開発・販売許諾権取得などにより、期初予算に対し+3.5億円増となる約25億円を見込む。

	21年9月期2Q（実）	21年9月期通期（予）
売上高	4,319	12,000
営業利益	105	2,200
営業利益率	2.4 %	18.3 %
経常利益	△ 32	1,850
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 63	1,250

事業セグメント	21年9月期2Q（実）	21年9月期通期（予）	進捗率	
テスト等ライセンス事業	売上高	759	1,390	54.6 %
	セグメント損益	356	520	68.5 %
教育プラットフォーム事業	売上高	1,088	3,070	35.4 %
	セグメント損益	444	1,230	36.1 %
テストセンター事業	売上高	1,107	3,050	36.3 %
	セグメント損益	△ 9	590	—
AI事業	売上高	237	1,330	17.8 %
	セグメント損益	△ 55	720	—
テスト運営・受託事業	売上高	1,196	3,330	35.9 %
	セグメント損益	85	420	20.2 %

# 事業トピックス①

## テストセンター事業

## 入試にも利用可能な高セキュリティのテストセンターを全国で展開、国内No.1のテストセンター事業者へ

### ■ 平日受験を促進

- 英検協会より「英検 S-CBT」の販売権を買い取り、平日申し込みの受験者に対してディスカウント価格で提供
- 2020年6月より本格運用を開始し、2021年3月末までに、テストセンター利用者数は**累計約45万人**



テストセンターの内装（新宿NSビル旗艦校）

### 感染症予防策を実施

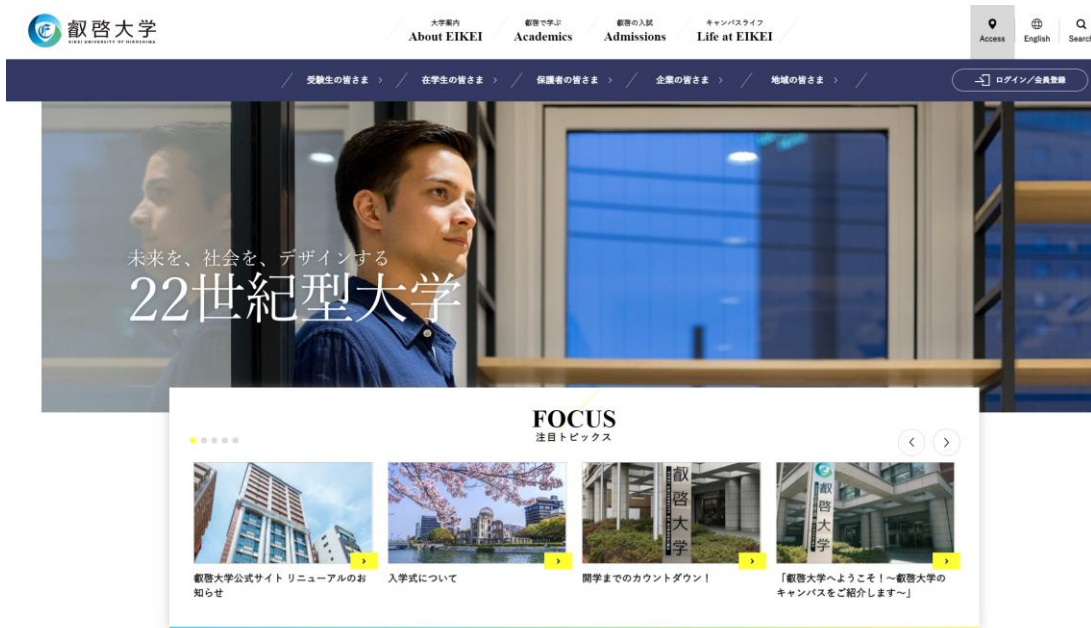
- 受付フェイスガード着用
- 受験者の体調チェック
- 受験者、機材消毒対応
- 換気対策
- 個別ブース席  
(受験者間隔90cm以上)



2020年9月時点

## 国公立大学で初、叡啓大学の一般入試（教科・科目試験）を全国のテストセンターでCBT方式により実施

- 2021年4月に広島市内に開学した新しい公立大学「叡啓（えいけい）大学」の一般入試を実施
  - 当社グループはテストセンターとCBT試験のシステムを提供。トラブル等発生せず、試験実施が完了
  - 東京、名古屋、大阪、岡山、広島、愛媛、福岡など、10都道府県12会場のテストセンターにおいて2月16日に実施、約50名が受験



### ■ 叡啓（えいけい）大学コメント：

2021年度入試は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策と、開学前の限られた人員での入試実施を両立させる必要があり、特に一般選抜の教科・科目試験の実施方法が課題と考えていました。

大学入試は、公平・公正な試験の実施が求められる試験であり、従来のペーパーベースの試験実施も検討していましたが、CBT形式であれば、本学の課題を解決することが期待できるため、CBT形式の英検の実績等、豊富な知見を有するEduLabグループと旺文社へ委託することにしました。

試験は、トラブルなく終了し、各テストセンターで適切に試験が実施された結果と考えています。

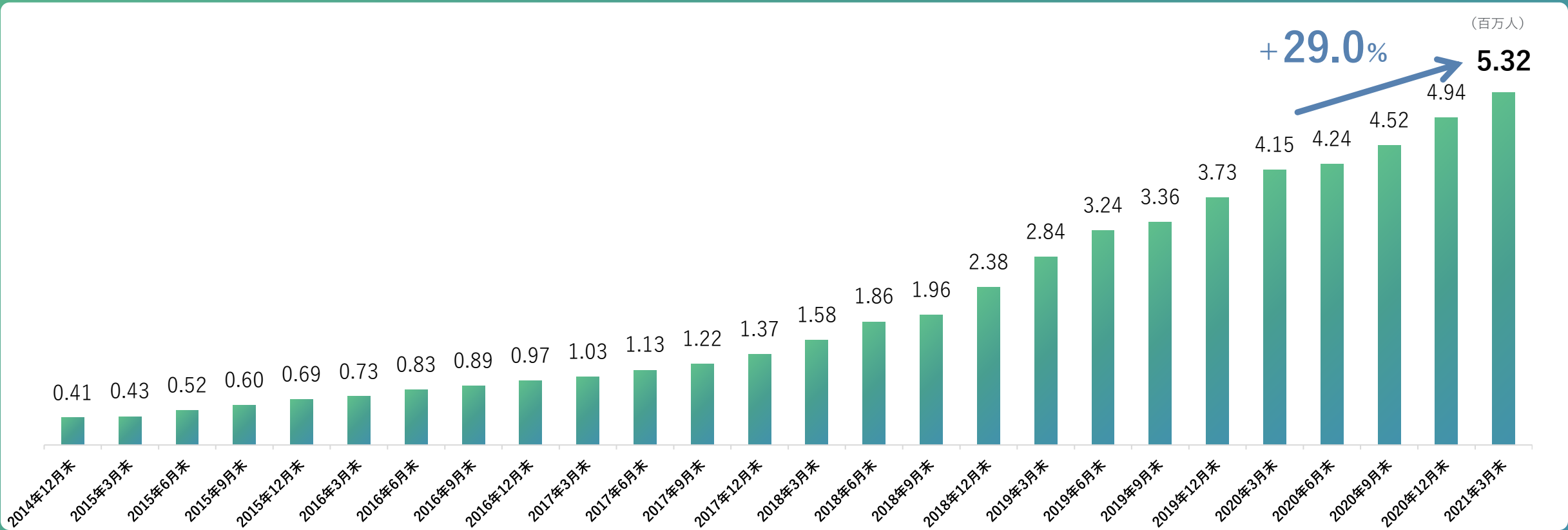
2021年3月に、大学入試センターから「大規模入学者選抜におけるCBT活用の可能性について（報告）」が公表され、CBT形式の実施方法は、今後も発展していくと考えていますので、本学での実施結果がこれに寄与することを期待しています。

# 事業トピックス②

## 教育プラットフォーム事業

教育プラットフォームの基盤となる英ナビの会員数は堅調に拡大し、2021年3月末時点で530万人以上  
 高校生の占める割合が高く、高校生の約半数が登録

- 会員数は堅調に拡大し2020年3月末時点で532万人に
- 前年比 122万人 (+29.0%) 伸長
- 高校生の2.3人に1人\* (130万人) が登録済み



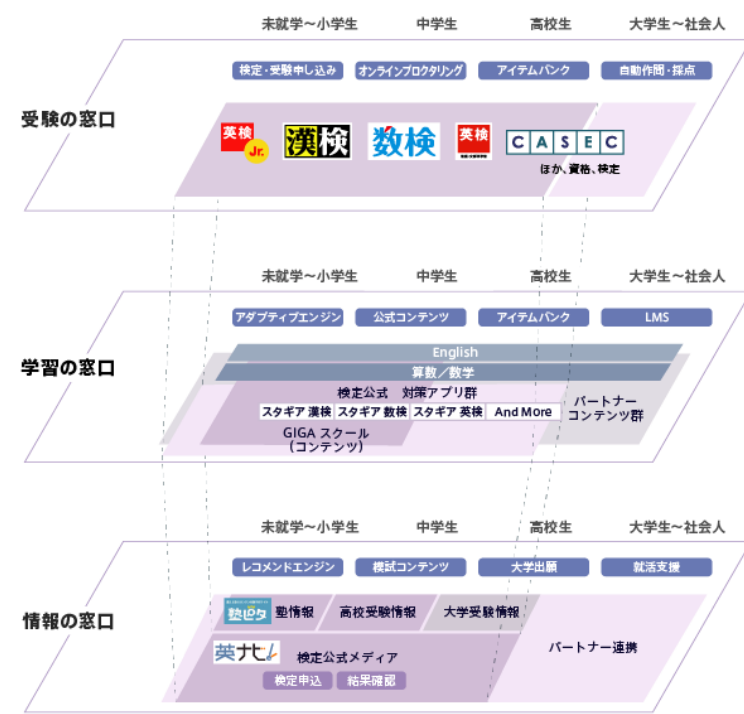
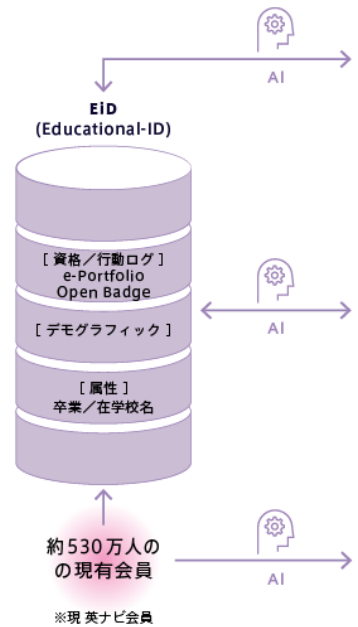


## 総合学習支援の窓口プラットフォーム「スタギア」 ティザーサイト公開

- プラットフォーム・サービスを「スタギア」ブランドとして大きくモデルチェンジ、2021年5月開始に向けティザーサイト公開
- 中・高校生を中心とした約530万人の顧客基盤をベースに総合学習支援の窓口プラットフォーム「スタギア」提供開始
- 『受験』『学習』『情報』3つの窓口サービスが相互に連携
- 3大検定（英検、漢検、数検）の公式ラーニングサービス等、コンテンツをパッケージ化ワンコイン500円（税込）の月額定額サービスを提供
- 全国検定振興機構発行の公式なオンライン成績証明書「オープンバッジ」を提供 入学試験や就職活動での利活用を促進
- 2021年9月末までに5万人の会員獲得を目指す

『受験』『学習』『情報』3つの窓口サービス

「スタギア」プラットフォーム概念図



## 「スタギア大学受験」(β版) 提供開始

- 大学情報・入試に関するメディア「スタギア大学受験」(β版)を4月22日より提供開始
  - 全国の大学の入試情報を検索できる他、会員アセットとAIリコメンデーションエンジン「CAERA」を組み合わせ、最適な情報を提供、高校3年間に寄り添うサービスを目指す
  - β版では、各大学について、学部学科や学費・奨学金、学べる学問等の詳細情報を検索することが可能
  - 英検、漢検、数検等の各種検定・試験の大学入試での活用方法など、利用者により適した情報を提案
  - 大学入試でのオンライン成績証明書(オープンバッジ)の利活用の推進をはじめとする、大学出願連携にも取り組む



## 通える塾の簡単見学予約サイト「塾ピタ」

- 自宅近くの塾を検索・比較して直接サイトから見学予約ができる、塾と学習者のマッチング・サービス「塾ピタ」を提供開始
  - 資料請求の時点ではなく、見学予約が成立した時点で費用発生・個人情報の受け渡しを行うことにより、塾と学習者の双方にメリットを提供
  - 今期2Qよりサービス提供を開始

簡単、ラクラク。アドバイザーピタ子がお子様の塾探しをサポートします。

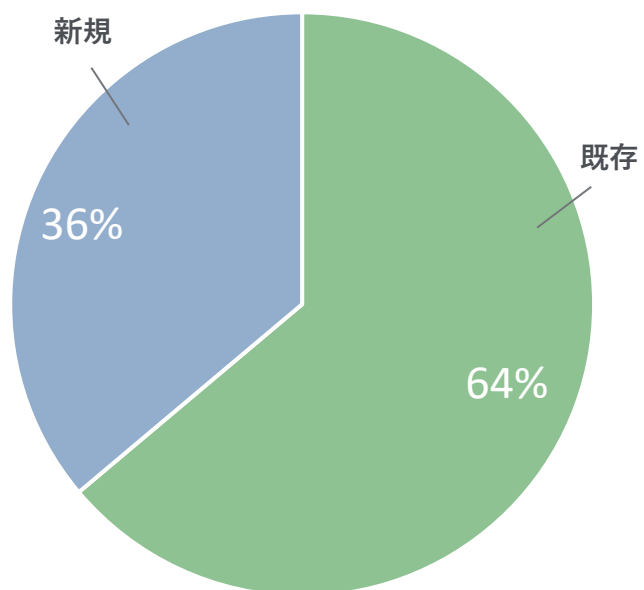


# 事業トピックス③

## AI事業

バージョンアップ後、追加で複数の代理店との提携に向け交渉中  
 下期に向けて本格的代理店契約の締結を目指す  
 教育業界や保険業界などにおける横展開等を軸に事業を拡大

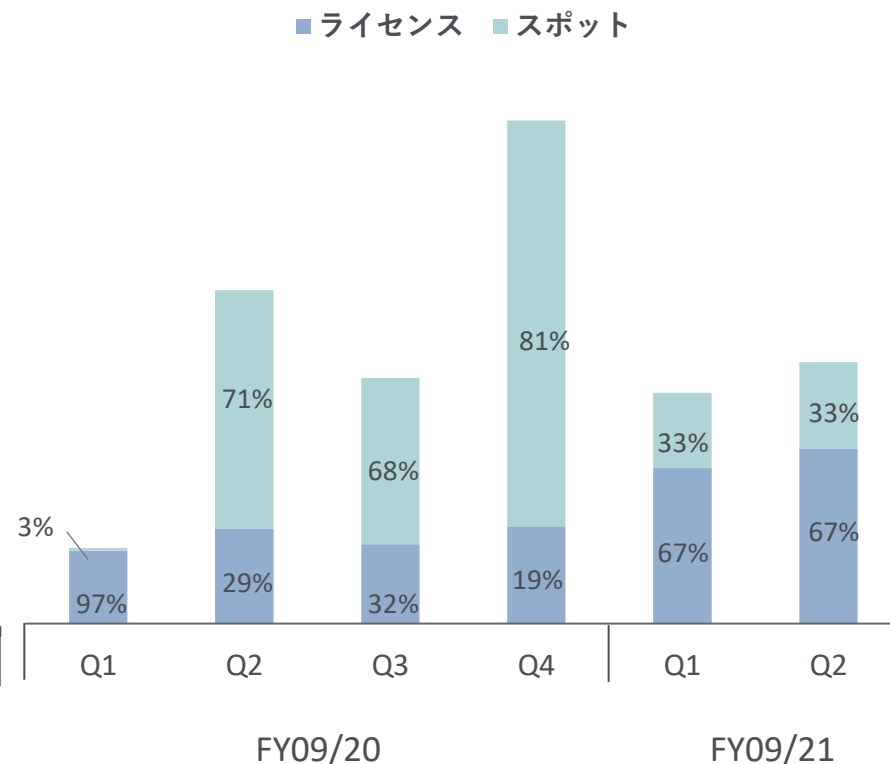
新規・既存顧客売上比率



無償トライアル実施数



売上高（外部）の四半期推移



## オンライン試験の試験監督（プロクタリング）システム、累計利用者3万人を突破

- テストセンターや在宅でのリモート受験の需要拡大に伴い、当社グループが提供する各種プロクタリング・システムの累計利用者数が**約3万人**を突破
  - 「CASEC顔認証」「CASECプロクタリング」「CheckPointZ」の3サービスを合わせて、約3万2千人が利用（2021年3月末時点累計）
  - 利用用途：
    - 企業研修の前後・定期的実施する能力測定
    - 大学・高専における定期的なプレイスメントテスト
    - 大学・大学院入試における推薦入試や一般入試

### 本人確認



申込時に登録する顔写真付きIDと受験中のユーザーをAIで特定します

### 操作チェック



コピー&ペーストや受験画面以外の操作を制限し、操作チェックを行います

### Webカメラ撮影



受験者をWebカメラで撮影、PCの操作ログも全て記録します

### AIによる不正



アイトラッキング、人数チェック、音声チェックなどAIによる多角的な分析で不正を検出します

### 二重チェック



AIが不正検出した受験者をさらに監督者の目で確認することでより正確な結果をご提供します

## 国内外の有力なベンダーとの提携

### ■ ABBYY

- Intelligent Document Processing (IDP) (※) のパイオニアとして、世界に16箇所の拠点を有するグローバル・リーディングカンパニー
- 日本拠点となるABBYYジャパンと協働し、同社の「FlexiCapture®」に「DEEP READ」を組み合わせることで、ボトルネックとなっていた手書き文字のデジタル化を高精度で実現

(※) Intelligent Document Processing (IDP) : 画像やメールなど非構造化されたデータから利用可能なデータを抽出するAI-OCR応用技術全般

### ■ UiPath

- ハイパーオートメーション (※) のパイオニアとして、世界に40以上の拠点を有するRPAのグローバル・リーディングカンパニー
- テクニカル・パートナーシップを締結し、UiPathの顧客やパートナーである金融サービス、保険、教育、ヘルスケア、製造、公共部門へサービス提供
- 今期2Q中に、従来の「Based」から「Advanced」へパートナーシップ形態をランクアップ

(※) ハイパーオートメーション: AI (人工知能) やML (機械学習) などのテクノロジーを活用し、複数のツールやソフトウェアを組み合わせで一連の業務を自動化する概念

- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2021年5月7日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。